建設防災
ボランティアニュース
第61号

目次

- 総合防災訓練
- 河川愛護月間行事
- 前期道路施設等点検
- 意見交換会－北南建班
- ミニツアーへのお便り

平成 28 年度総合防災訓練

炎天の中会員１３名が奮闘

建設防災ボランティア13名は、9月4日（日）、午前9時から13時まで、「平成28年度東京都・葛飾区・墨田区総合防災訓練」に参加しました。会場の「都立水元公園」で、道路障害物除去訓練及び展示・体験訓練に汗を流しました。

当日は、一時強い雨がありましたが、全体を通しては炎天下での訓練となりました。お年寄り、家族連れなど多くの都民の皆さんが参加され、障害物除去訓練を間近で見学し、展示・訓練会場では、パネル展示を興味深げに見て回り、各種の体験にも積極的に取り組む姿が見られました。

また、私たちの訓練会場では、イギリスや韓国のレスキュー隊が水圧扉体験、土のう作り体験に飛び入り参加。真剣の中にも、笑いや歓声の上がるような訓練が展開されました。

土のう、水のうづくりや水圧扉体験などへの参加は、ちびっこやご両親、お年寄りが、いつか発生する災害に際して自助、共助の活動をしていくうえで確実に生かされると感じました。

炎天下でもあり、ボランィアは、テント内での休憩を入れながら交代で対応することにしていましたが、多くの都民が集中する時間帯が続きその間、休むことなく、五建の職員とともに、明るく積極的に対応いたしました。

なお、五建との数回の事前調整ではその都度、資料整理、メール送信など的確に処理していただいたので、ボランティア間の連携もスムーズにいきました。

訓練後、局長、所長からは、ボランティアに対する配慮のある講評をいただき、いっそう達成感を感じることができました。

当日の参加ボランティアは以下の通りです（敬称略）。五建に隣接する一建、四建、六建からそれぞれ3名のご協力をいただきました。

■道路障害物除去訓練：情報連絡班（高橋好弘）、応急対策班（阿久津勉、浅田光昭）

■展示・体験訓練：案内資材配布班（輿水昭秀、萩原松博）、土のう積み体験班（林幹生、阿部博、田所伸夫）、水圧扉体験班（藤野文隆、佐野正生）、河川部パネル展示班（平野敬治、荒井一朗、小山完治）

西倉建設局長、三浦道路監と参加会員

最後に、防災訓練にはじめて参加したボランティアから、私宛にいただいたメールの概要を紹介させていただきます。

「総合防災訓練に参加して、皆様にいろいろ教えていただき、良い経験となりました。必ずや、いざというときに役立つと確信いたしました。本番のくることがないよう祈るとともに、今後とも研鑽怠りなきよう肝に銘じておきます。」

五建班　阿部博

道路障害物除去訓練～六建班

道路障害物除去訓練は、道路管理部、第五建設事務所、葛飾区、JAF、協力業者、建設防災ボランティア等、総勢100名程度が参加し、都立水元公園・中央広場東側・ポプラ並木付近で行われた。訓練概要は、地震発生に伴う瓦礫、倒木、放置車両等による道路閉塞の解消により、救出救助車両等の通行路を確保することである。

本部長（五建・小林所長）の宣言で開始した当初は、激しい降雨の中のスタートとなったが、程なく上がって、各作業はスピーディ・的確に進行した。①道路巡回による状況報告、②瓦礫・倒木等の道路障害物撤去、③放置車両の移動、④除去作業後の安全確認、⑤道路交通解放の順で進み、建設防災ボランティア（六建班、浅田、阿久津、高橋）も情報連絡班、応急対策班に属し役割を果たした。

訓練終了後、建設局長、葛飾区副区長より常日頃の研鑽・連携の強化の必要性についての講評を受けた。

六建班　浅田光昭

河川部パネル展示・案内～四建班

平成28年9月4日（日）、葛飾区の都立水元公園における総合防災訓練に参加した。私は参加防災ボランティア13名の一人として、四建班の平野敬治さん、小山完治さんとともに、河川部パネルの展示・案内を担当した。

訓練は、「自助・共助」と「連携」をテーマとし、東京湾北部首都直下型地震を想定したものであった。各参加団体は広い公園の中で訓練の習熟に重点を置いていたように感じられた。

また、葛飾区の区民が、町会単位で同一の帽子と災害対策服を身につけて行動する姿は、区の職員と見間違えるほどであり、日頃から低地の水害を心配している様子がうかがえた。

雨量、河川水位、河川映像などの水防情報については、パソコン、スマホ、携帯、水防ツイッターを介して提供しており、情報システムの説明や河川事業のパンフレット配布も実施した。たまたま旧知の消防署長が視察にきて、ブース内で情報・連絡体制の充実と水防団体の重要性について意見交換ができた。

現役時代に持っていた危機管理の意識は、卒業後半年で薄れつつあったが、当日午前10時過ぎのゲリラ降雨や、その後の強烈な日差しに、「自然の力」を感じながらも、久しぶりの防災訓練を機に、有事の際の活動の限界についても考えた。「職員は何人出動できるのか」、「災害協定を結んでいるとはいえ、道路啓開のための重機と人員を確保できるのか」などなど。さらに、南東建補修課長として町田駅周辺部を会場とした総合防災訓練に参加し、訓練シナリオ作成にあたり OB の助言が自衛隊、警察、消防と連携した障害物除去訓練に大いに参考となったことなども思い出した。

これから自分はどのように担当建設事務所に貢献できるのか、自分の健康や家庭の事情と相談しながらも、新たな心構えの必要性を感じたところです。

今回の訓練も、担当事務所では、人員、予算、運営検討等に時間を費やし、さらに苦労して防災ボランティアの活用も視野に入れた計画を作成したことが推測されます。今後も要請に応えるべく、少しでもお役に立ちたいと考えています。

四建班　荒井一朗

土のう作り訓練

水圧扉体験

河川愛護月間行事

今年は各地で川が大暴れして多くの被害が出ていますが、普段の川は安らぎの場、憩いの場です。そんな川を知ってもらうために、各地で開催された河川愛護月間行事。天候不順で「川を歩こう－南浅川」が中止となりましたが、暑い中延べ 83 名の会員が各地で活躍しました。皆さんお疲れ様でした。各行事の参加者等は以下のとおりです。

（1）川を歩こう

河川名	開催日	事務所	会員	都民等
旧中川	6/4	治水	3 名	85 名
隅田川	7/1	一・五建・治水	4 名	72 名
石神井川	7/2	六建・四建	3 名	78 名
南浅川	7/9	南西建	中止	
多摩川	7/14	西建	2 名	22 名
計			12 名	257 名

（2）川のパネル展

場　　所	開催日	会員	都民等
一庁 45Ｆ南展望室	7/2～8	12 名	1858 名
二庁１Ｆ臨時窓口	7/11～15	9 名	365 名
議事堂都政ギャラリー	7/19～22	7 名	143 名
新宿西口イベントコーナー	7/27～31	18 名	3468 名
計		46 名	5834 名

（3）その他

行事名	開催日	事務所	会員	都民等
環七地下の巨大トンネルを体験	7/10	三建	7 名	180 名
野川ちびっ子先生集まれ	7/11	北南建	6 名	122 名
わくわく川清掃＆川あそび	7/17	北北建	7 名	400 名
東京の川を考えるシンポジウム	7/28	河川部	5 名	208 名
計			25 名	910 名

担当理事　高橋紀男、佐藤清美

川を歩こう－隅田川コース

江東治水・一建・五建が主催する「川を歩こう」（隅田川コース）に、スタッフとして参画し、都民の皆さんと半日を過ごした。

日　時　平成 28 年 7 月 1 日（金）
午前8時半～午後1時50分

コース　東京水辺ライン両国発着所（船）・・桜橋・・越中島発着所→大川端→佃公園→勝鬨橋→明石町聖路加タワー前

参加者　平田忠夫、青木浩、佐野正生、宮良眞

当日は、幸いにして雨天とはならず、曇り模様であった。梅雨の晴れ間であり、とにかく暑い。8時半には、両国発着所に集合し、スタッフミーテイングに出席する。役割分担の確認、注意事項などの説明があった。約100名（都民参加 72 名）の参加者を三つの班にわけ、それぞれ隅田川沿いを歩く。60歳以上の都民の方も7名ほど参加している。熱中症や体調不良に留意とのこと。防災ボランティアは当然、60歳以上なので、私たちもこの範疇に入り自己管理が必要だ。

手際の良いミィーテイングが終わり、さっそく、ボランティアの役割分担である両国駅から発着所までの案内に向かう。参加者から「ありがとう」、「送られてきた案内図が不親切で場所がわからない」などと言われ、久しぶりに都民対応を味わう。

9時半には「あじさい丸」に乗船し、まず上流へ向かう。厩橋、駒形橋、言問橋と名だたる名橋である。桜橋で折り返し下流に向かう。川からの街の姿を堪能し、秀麗な清洲橋を過ぎると越中島も近い。10時40分には到着し、トイレを済ませ、いよいよウオーキング、隅田川ミニツアー開始である。

一班から順次歩き出し、勝鬨橋を目指す。対岸には大川端が見え、高層建築と親水護岸、斜面の緑が鮮やかである。川際を覗いてみると、小魚が泳ぎ牡蠣も見える。感潮域であり海の生物である。大川端を過ぎ、しばらく歩くと佃公園、住吉神社前の住吉水門となった。スーパー堤防、水門など要所で東京都の取り組みについて説明がある。慣れたもので流暢である。日も高くなり、曇りであるが湿度が高く、かなり汗をかく。月島川水門まで来ると、勝鬨橋は目の先、先発班は明石町聖路加タワーに到着しているのが見える。最後の班に同行し、到着したのは午後1時50分頃であった。熱中症を心配したが、けが人もなく全員無事にゴールした。

昨年は雨天であったそうだ。梅雨時期で天候が不順、晴れれば気温は 30 度近くなる。参加者は、一般公募し抽選であるという。河川沿いを歩く季節としては最適とは言い難いが、隅田川コースは船に乗れるということで人気があり、都民の関心の高さに改めて感心した半日であった。

一建班　宮良　眞

野川のちびっ子先生あつまれ!!

第14回「野川の通信簿」

今年は天気が良い7月11日の月曜日であった。北南建班は会員数が建設事務所で最も少ないが6 名が参加した。70 名ほどの小金井市立南小学校の6年生がABCDの4班に分かれ、「鳥と昆虫」、「植物など」、「水生生物」、「水質」の 4 項目について、野川流域連絡会議の方々が講師となり、各項目の課題について観察活動を行った。例年参加のボランティア会員は手馴れており、子供たちを「孫のように」巧に扱い、活発な対応ができた。

内山、池田、柿堺、新川、小島、舛原の各会員

炎天下での活動で気持が悪くなる小学生も見られたが、今年は体格の良い子も多く、ほとんどの生徒は元気に野川の自然観察を行っていた。

また北南建の現職も小川工事第二課長を筆頭に 40 数名の職員が参加し、今年も暑いなかで南小学校6年生に対し、「熱く」話し・活動し、河川愛護の精神を理解してもらえたと考えている。

今年は、7月までの降雨量が少なく、地下水量も少ないためか、川の流量が例年の半分ほどで、例年の水質が確保できなかったが、活発な観察はできた。「植物など」においては、多くの植物を採取し、外来種が多い中、少ない日本固有種の中でも貴重種が採取できたため、貴重な図鑑ができた。

例年、色々な「気づき」があり、防災ボランティア会員としても楽しい半日であった。午後に用事があるにも拘わらず参加された会員もあり、河川愛護月間に寄与できたと思う。最後に、今年は日陰のないなかであったので、相当陽に焼けた。

北南建班　　新川　彰

活動する各班の紹介

川を歩こう 石神井川～六・四建班

川を歩こう 多摩川～西建班

環七地下の巨大トンネルを体験～三建班

わくわく河清掃＆川遊び～北北建班

前期道路施設等点検

前期「道路の施設とバリアフリー点検」が6月17日から8月2日まで行われ、協会員65名が参加しました（下表）。参加された皆様、暑い中ご苦労様でした。11月～12月上旬の実施が予定されている後期もよろしくお願いいたします。

事務所	実施日	参加協会員
一　建	8/1・2	2 名
二　建	7/12～21	5 名
三　建	7/13・20	8 名
四　建	6/17～6/30	14 名
五　建	7/11～15	4 名
六　建	7/13・25	3 名
西　建	6/24～7/8	6 名
南東建	7/1	9 名
南西建	7/15	8 名
北南建	7/6・8・15	3 名
北北建	7/8	3 名
計		65 名

担当理事　久保田元久

五建都道の徒歩点検に参加して!

観測史上二番目に遅く発生した台風 1 号が、嵐と一緒に夏を持ってきた感じの7月12日午後、蒸し暑い中、五建の道路点検に参加しました。内野班長、橋本課長を始めとした五建職員4名と防災ボランティアから青木の計五名で、点検区間は新大橋通りの西大島～菊川約 1.8km でした。

20 数年前五建の補修課に勤務していた時に江東西工区の直営作業班と新大橋通りの点検をしたことを思い出して懐かしい気持ちになりましたが、直営作業班は無くなって、管理工区も西と東が合併して江東工区になったという話を聞いて時代の流れも感じました。

点検は、二グループに分かれて、上り線と下り線を徒歩点検しました。私は上り線グループに入りましたが、昨年道路補修工事を実施した区間もあって、道路の状況は概ね良好に保たれている感触を受けました。

点検で対応や処置の必要があった所は、ボラードの曲り、枯れた街路樹、標識の取れた交通標識柱、放置自転車などで、いつものようにそれぞれ異常箇所ごとに位置を地図に示し、異常の状況を写真撮影しました。

二時間弱で点検は無事終了しましたが、蒸し暑い日だったので、地下鉄の駅にたどり着いた時は駅構内の冷房にホッと一息ついた点検でした。

五建班　青木浩

北南建都道の徒歩点検に参加して！

前期徒歩点検は7月8日都道武蔵野狛江線(第114 号)の京王線仙川駅付近の国道 20 号から中央自動車道下までの間、延長 1.6 kmの両側歩道についてバリアフリー点検を含めて車椅子で走破した。(新川担当)

当該区間は、50 数年前には歩道設置がされていないバス路線の区間であり、私が通学していた懐かしい道路で徒歩点検ができたことは、嬉しい気持ちであった。

歩道の横断勾配については、設計者の意向で平坦の区間や2%勾配をつけた区間など、対応はまちまちであったが、狭い歩道であるため、急こう配に感じられる場所が何箇所か確認され、車椅子での走行が困難な場所が見られた。

歩道幅員が平均 2m 近くあることから、自転車走行が可能な区間が多いが、歩道内への自転車走行は少ない。またこの路線は、狛江市から三鷹市への南北方向の都道であり、現道内歩道設置を順次施工してきた。そして狛江市～三鷹～武蔵野にかけて、畑地の土揚げ地に道路を整備したことから、この土揚げ部分に歩道設置して整備されてきた路線である。

7 月 6 日及び 15 日には、三鷹通りの東八道路交差点～深大寺小交差点間(舛原会員担当)と深大寺交差点～布田駅前交差点間(池田リーダー担当)を徒歩点検している。

どこの区間も歩道の巻き込み部のコンクリートブロックが破損してぐらついている状況があり、点検結果として報告することとした。

用地買収による部分的な歩道拡幅が必要な区間については、少しずつ事業化していくことが必要と考えるが、一部に老朽化による不備などはあるものの、全般的には適正な管理がされている状況にある。また、先の都道武蔵野狛江線(第 114 号)では、切り下げ部が「府中型ブロック」を使用しているため、歩道の横断勾配がきつく感じられる箇所が多くあった。

写真のような箇所については、用地買収ができ

なくても地主さんとの調整によって段差解消をするなどの工夫も必要であると思う。

北南建班　新川彰

意見交換会開催～北南建班

武蔵野の森総合スポーツ施設Ⅱ期建築工事見学

例年、防災ボランティア会員と北多摩南部建設事務所職員との「意見交換会」を開催している。今回は、北南建管内にある「武蔵野の森総合スポーツ施設(仮称)建築工事」について、財務局と調整をしていただき、9月12日に現場を見学することができた。

柿堺顧問を筆頭に小島信之、内山一夫、米田秀男、川合康文、舛原邦明、池田繁敏、新川彰の参加メンバーのなかには、「味の素ｽﾀｼﾞｱﾑ」の建設や維持管理に係わっておられた方もおり、新アリーナの建設現場はすぐ隣である。

当該施設は、20年の東京ｵﾘﾝﾋﾟｯｸのバレーボール、バスケットボール会場が予定されているメインアリーナと、「屋内プール」や「屋内フットサル会場(柔道など大会も可能)」などが予定されているサブアリーナの2施設である。

メインアリーナの外装パネルには、三角形のパネルを1440枚設置することで曲線を創出している。また植栽パネルや太陽光パネルを外装パネルとして設置するなど、種々の装置が計画されていた。

電気設備は、再生可能エネルギーとしての太陽光パネルやプール熱源に地中熱ヒートポンプの熱交換杭を設置するなど、省エネ対策を充実した施設となっていた。

先の昭和 39 年の東京オリンピックで、マラソンコースや競歩の折り返し点であった記念碑が味の素スタジアムの一角にあり、また今回建設されるメインアリーナを始めとする新たなオリンピック関連の施設が加わり、末永く都民のためのスポーツ施設として運営されていくこととなる。当該地域は米軍の通信所として使用していた土地が昭和 48 年に返還となり、先に話題となった調布飛行場が存続するとともに、各種総合スポーツ施設と病院などの福祉施設が設置された場所でもある。

見学終了後は北南建事務所に戻って意見交換会を実施した。その後事務所管理職との懇親会をもち、楽しい時間を過ごさせていただいた。

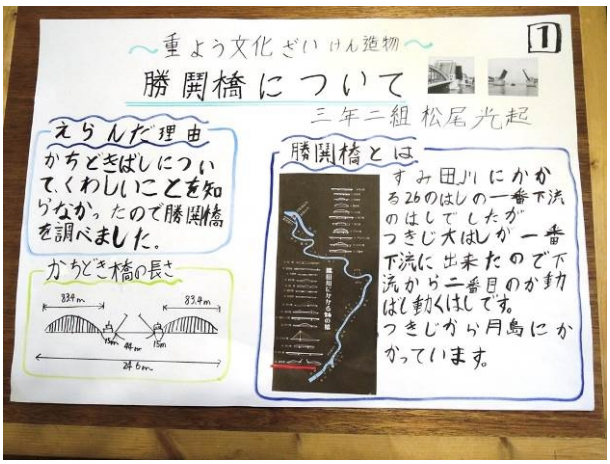
今回の見学に当たっては、斎藤所長、寺内副所長を初めとして、管理職の皆さんに忙しいなかご案内いただき、昔の想い出などが走馬灯のように思いだされてきた。

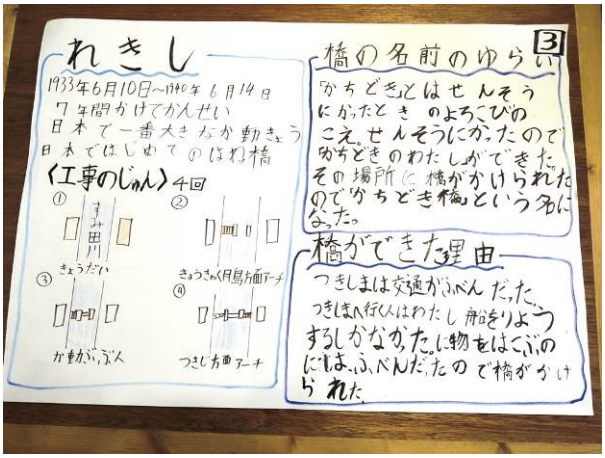
北南建班　新川　彰

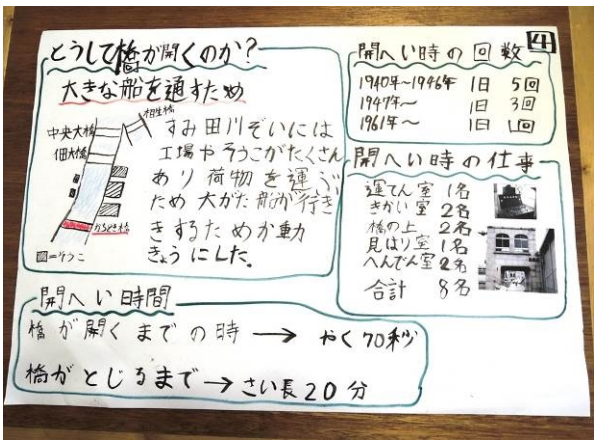
ミニツアーへのお便り

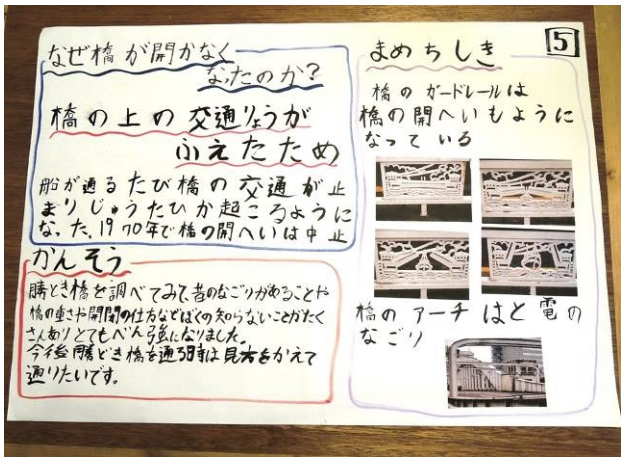
勝鬨橋ミニツアーは今年も夏休みに来られた方に感想文をお願いしました。８月４日に参加された次の２組の方からお便りが届きましたので紹介します。

まず、中央区立京橋築地小学校の3年生松尾光起君が、自由研究で5枚の画用紙に書いてくれた力作です。お母様から「・・皆様のおかげで大変有意義な時間を過ごすことができました。愚息も大変橋に興味を持ち、勝鬨橋の模型を作ると張り切っております。」とのメールもいただきました。









お孫さんの大樹君と↑

大門様のお手紙→

築地と言えば築地本願寺　築地市場
そして勝関橋
昭和四十五年に結婚でこの地を離れるまで
朝は本願寺のお勤めの鐘の音
築地市場の喧騒　そして家の窓から見る
勝関橋の勇姿　男らしく厳とした所が
ありわの憧れの橋でした
散歩で橋上を歩き　遠く東京湾方向を
臨むとなんと気持ちの良い事か

次に相模原市からお孫さんの大樹君（10歳）とお越しいただいた、大門幸子（70才）さんから、とても達筆なお手紙をいただきました。全文を紹介します。

築地と言えば築地本願寺　築地市場　そして勝関橋

昭和四十五年に結婚でこの地を離れるまで朝は本願寺のお勤めの鐘の音　築地市場の喧騒　そして家の窓から見る勝関橋の勇姿　男らしく厳とした所があり私の憧れの橋でした

散歩で橋上を歩き　遠く東京湾方向を臨むとなんと気持ちの良い事か

その勝関橋の内部見学がこの度出来ました七十才を迎えた老女の私もワクワクです　孫と二人で築地市場を見学し　最後に橋の内部を見学とはなんとラッキーでしょう

絶対体験できない垂直の丸棒足掛けのはしごを降り　厚いコンクリート壁に囲まれた内部の直流のモーターで橋を７０度まで上げこの重さの物を僅か７０秒で開く技術は目を見張るものです

それに名のある設計者を擁しての建造かと思いましたが　東京都の建設局のチーム設計と伺って　快挙々々　拍手々々です。

建設局OBの方々のボランティアで丁寧な説明を伺いました　どうか百年を目指すだけでなく　末永く築地　いや東京都　いや日本のシンボルとなる事を願っております

新規会員の紹介

今回は退職者が少なく、お一方だけでした。

佐野克彦さん（本部、顧問）

協会からのお知らせ

① 勝関橋ミニツアーの研修会は11月16日（水）に開催されます。

② 各班の活動報告をお待ちしてます。ぜひ下記編集担当理事又は林まで連絡願います。
林アドレス(mikio.hayashi@okumuragumi.jp)

③ 協会のH. P(東京都建設防災ボランティア協会掲示板)には、最新の情報、ニュースのバックナンバー、建設局報などが載っています。
アドレス(http://tokyo-adv.info/)

＊＊＊編集後記＊＊＊

今号は原稿が多く編集が大変でした。嬉しい悲鳴です。今後も続くことを願ってます。投稿大歓迎です。

発行人　杉浦　浩
発　行　東京都建設防災ボランティア協会
新宿区西新宿 2-7-1
小田急第一生命ビル 20F
（公財）東京都道路整備保全公社内
編　集　高橋　紀男、林　幹生
堀内　康彦、丸岡　敏夫